

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山南高等学校
学校番号(21)

評価実施日		令和6年2月19日(月)	
委員	氏名	所属等	備考
	岡田 紀夫	地元企業関係者	学校評議員
	元永 学	自治会等関係者	学校評議員
	東海林登志子	地元企業関係者	学校評議員
	井上 敏憲	学識経験者	学校評議員
	中村 和憲	食文化・料理研究者	学校評議員
	九鬼 隆	保護者	
	露口さえ子	保護者	
	重見 愛	保護者	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 全体について	
<ul style="list-style-type: none">・全日・定時・分校とそれぞれに特色ある教育活動がなされていることがよくわかった。・新しい制服を検討するにあたって、砥部分校の生徒のデザインを反映させるのはすばらしい。ますますオール松山南としての一体感が強まると感じた。	<ul style="list-style-type: none">・今年度の重点努力目標として、全日制「志高く心を耕し言葉を磨け」定時制「志の教育一夢に向かって心を耕し言葉を磨け」砥部分校「夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進」を掲げて活動した。今後とも、それぞれの学校の魅力を高める取組を行い連携を深めていく。・今年度、全日・定時・分校が協働した新しい取組を行ったが、今後も、オール南を意識して教育活動を実践していきたい。
(1) 全日制について	
<ul style="list-style-type: none">・様々な成果を上げており、部活動における成果も素晴らしく、文武両道が実践できている。・コロナ禍が明け、学校行事では、生徒たちが元気に活躍していて良かったが、猛暑が続く中、熱中症対策もしっかりとお願いしたい。・家庭学習時間の目標設定や課題の状況から、もう少し生徒が自由に学習に取り組める余裕があれば良いのではないか。・学習時間が減少しているように感じる。質も大切だが量も大切ではないか。	<ul style="list-style-type: none">・伝統を感じながら、校訓「自らを律せよ」のもと、生徒一人一人が高いレベルの文武両道を目指して良く努力した。・部活動においては、今後も、限られた敷地、限られた時間の中で創意工夫しながら取り組み、その中でも結果を出していく伝統をつないでいきたい。・熱中症対策として、休憩室の確保や暑さ指数の測定など、様々な対応をした。今後も、生徒の健康管理を徹底したい。・学ぶ意義や楽しさを伝え、学習時間の確保と自ら学ぶ姿勢を育てていきたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代は多感な時期で、多くのインプットに対してアウトプットをしないと心と体のバランスがとれない。大きく揺れるこの時期の生徒に寄り添っていくことが大人として大切なことだと思う。 ・「無理をさせない」という社会の風潮があるのは承知だが、先生方にはある程度頑張れる生徒の育成をお願いしたい。 ・スーパーサイエンスハイスクール事業はすばらしい成果を上げている。今後も続けてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みを抱え、不登校傾向となった生徒がいるが、担任、学年主任、スクールライフアドバイザー、臨床心理士が連携し、教育相談機能を充実させた。今後さらに、生徒たちの悩みに早期対応ができるよう、細やかな面接等の支援を充実させ、生き生きと自らの高い目標に向かい粘り強く努力できる生徒を育てていきたい。 ・SSH先導的改革型Ⅱ期の指定を受け、全国のリーディング校として、STEAM教育を核とし、教科横断型授業、産学と連携したデータサイエンス、国際共同研究等に取り組んでいるが、今後も多くのコンテストに挑戦させていきたい。
(2) 定時制について	
<ul style="list-style-type: none"> ・定時制においては交通事故が数件発生している。大きな事故にはなっていないようだが安全教育をお願いしたい。 ・生徒に寄り添い、それぞれの個性や能力に合った指導をしていただいている。 ・定時制の在り方も以前とは変化している。定時制の魅力を発信し、生徒数の確保につなげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全については、警察との連携を図り交通安全教室を開催するなど対応したい。 ・引き続き、生徒に寄り添い、きめ細かな支援や指導を行いたい。 ・引き続き、松山地区の中学校を訪問し学校の紹介を行ったり、学校HPなどで生徒の活動の様子を紹介したりするなどし、生徒数の確保につなげたい。
(3) 砥部分校について	
<ul style="list-style-type: none"> ・砥部分校は学校再編の問題を抱えているが、今後も地域に根ざした学校として存続してもらいたい。全体的に男子生徒の人数が少ない。特に砥部分校は男子生徒の人数増加が望まれる。 ・砥部分校が猶予期間付きではあるが、ひとまず存続ということで安心している。今後の動勢に注意したい。 ・デザイン科の特色を活かした進路選択ができるよう、進路指導を充実していただきたい。 ・今年度は、研修旅行や県展見学会、文化祭、卒業制作展など多くの学校行事を、コロナ禍以前の状態に戻して実施できたことは大変よかった。特に先日行われた卒業制作展は生徒の個性が十分発揮されたユニークな作品が多く、来場された多くの方々に高く評価していただいた。 ・また、本校の芸術文化発表会に砥部分校生の参加し、南高全体で盛り上げることができたこともオール松山南の醸成に貢献した。今後とも外部依頼も含めて、生徒の活躍する場面を積極的に支援していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・砥部分校は、県立高校でありながら砥部町と強く結び付くことで、存続が5年間延長された。今後も地域活性化の中核的機能を強めながら、たくましい生徒の育成に向けて努力したい。 ・進路選択については、デジタルコンテンツ企業である(株)オートクチュールと協働してキャリア教育の充実に努め、生徒の多様なニーズに対応していく。 ・学校行事を制限なく、また予定通り実施できたことは、生徒の自己肯定感を高めるうえで大変有意義であった。特に外部の方の評価や感想を聞いたことは生徒にとって非常に励みになったし、自信にもつながったのではないかな。 ・本校の芸術文化発表会のステージ部門に参加できたことは、異なる学校コミュニティ間の統合と結束が促進されるとともに、多様性の尊重と包摂性の醸成に大きく寄与するものと考え、今後もあらゆる面で連携を深めていきたい。

<p>2 自己評価の項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果を上げている項目が多く、うれしく思う。 ・自己評価表を見ると低い評価もあるが、目標が高いところにあるので、自己評価が低くなるのは、結果としては仕方がない面もある。そもそも基準が厳しいように感じる。例えば、全日制の難関国立大学の中に医学部医学科も入れているのでは。 ・全日制について、3年生の学習時間が確保できていないのが残念である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準については、学校として目指す目標達成に向け、適切な評価、改善につながる評価となっているか見直したい。 ・家庭学習時間については、新たに導入した学習支援システムなどのICTの有効活用を含め、課題の出し方や提出方法を適宜見直しながら、学習時間の確保に努めたい。 ・出席率については、数値だけにとらわれず、登校し辛い生徒や、教室に入り辛い生徒などの支援を含め、生徒が生き生きと充実した学校生活が送れるよう努めたい。 ・働き方改革については、新たに導入に向けて試行してるICTを利用した採点システムが、その一助となり、さらに、生徒の個別指導時間の確保につながるものと期待したい。
<p>3 学校評価アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」の13番「生徒は、人権を守り、命を大切にしている」や24番「学校は、生徒の健康や安全に関する適切な指導を行っている」では、生徒の評価1や2が大変少ないのに対して、教職員の評価1や2が多いのは、教職員の評価が厳しいためであると思う。 ・砥部分校の学校評価を見ると、身だしなみの項目において、生徒及び保護者と教員の間で乖離があるようだが、それほど大きな問題ではないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価が低かった項目⑤施設・設備等の充実については、来年度より始まる体育館の長寿命化・新校舎建築の工事期間中も充実した学校生活を送れるよう可能な限り配慮したい。 ・保護者の評価が低かった項目②元気で充実した学校生活については、家庭と連携しながら生徒の様子をしっかりと把握し、登校し辛い生徒や、教室に入り辛い生徒にも細やかな支援を行いたい。 ・教職員の評価が低かった項目⑮ヘルメットの着用・交通ルールについては、ヘルメット着用率は高いが、かぶり方には指導が必要な面もあり、安全指導の徹底を図りたい。
<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒が入学しており、価値観は人それぞれである。卒業していくときに「松山南に来てよかった」と思えることが大切である。 ・校内的評価だけでなく、対外的評価が認められることが生徒の自信につながる。 ・オール松山南の取組は、互いの良さを取り入れていくことに意義があり、普段からそれを生徒に伝えていく工夫が必要である。 ・芸術文化発表会ではオール松山南で、それぞれの持ち味を発揮した発表で、感動した。一緒にふれあうことで羽ばたいていけると思う。今後の展開に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、台湾との国際交流、全日制文化祭における造形コンテスト、芸術文化発表会などで、全日・定時・分校の新たな協働した取組ができた。今後も、いろいろな場面で交流の場を持ち、オール松山南として活動していきたい。協働することで大きな力を発揮できることもある。生徒のオール松山南の意識の醸成も図り、生徒の意見を取り入れ、生徒の力を信じて育成していきたい。 ・SSHの取組をはじめ様々な経験を通して生徒たちの自信と主体性を育てていきたい。